

令和2年度 学校経営方針

練馬区立光が丘夏の雲小学校
校長 牧野 光 洋

1 学校の教育目標とめざす児童像

- (1) 教育目標
 - 進んで学び 深く考える子供
 - 思いやりをもって行動する子供
 - 体をきたえやりぬく子供
- (2) 目指す児童像
 - 勤勉な子供
 - 夢を育む子供
 - 他者を思いやる子供
 - ルールを守り、礼儀正しい子供

2 基本方針

教育活動の中心に児童をとらえ、その人権を尊重した教育を推進する。教職員は日々、研鑽に励み、専門性の習得、資質の向上、総力をあげ信頼される学校づくりを目指し全ての教育活動をとおして、教育目標とめざす児童像の具現化に努め、「子供一人一人の可能性を引き出し、伸ばせる学校・子供の夢を育む学校」を目指し、「恕の心」をもって優しい言葉で伝え合う学校づくりを進め児童に夢を与える職員体制を「一人一改革」の中で整える。

- (1) 人権を尊重する教育
 - ・ 個人情報保護の強化（家庭・地域との連携の強化）
 - ・ いじめの予防・早期発見・早期解決、子供を守る。
 - ・ 児童理解に努め不登校・不適應など0（ゼロ）を目指す。
「子供の幸せ」を願い、その願いに立って計画・実践、評価、改善を推進する。
 - ・ 美しい言葉・優しい言葉遣いを指導し、言葉による暴力等の根絶を目指す。
- (2) 児童に夢を与える。
 - ・ 全教職員が心身とも健康であること。教師自らの夢をもち、努力する姿が大切。
 - ・ 使命感に燃え一丸となる教職員集団を形成する。
 - ・ 組織体として指導にあたり、家庭・地域と協働する。
 - ・ 「知・徳・体」の調和のとれた児童一人一人を育成する。
 - ・ 自己研鑽を積み専門性・人間性を高める。（一人一改革）
- (3) 幼保小中連携として、15カ年を見通した教育に努める。
 - ・ 接続のポイントを探る。（教科ごとの連携で授業内容、指導方法を把握する。）
 - ・ 保育園、幼稚園の教員連携・交流を図り子供が充実した学校生活を送れるように努める。

3 本年度の重点事項 テーマ（恕の心をもって、優しい言葉遣いで伝え合う）

- (1) 児童の一人一人の可能性を引き出し伸ばす学校作り、個性を生かす指導を実践する。
【練馬区教育振興計画における「みどりの風吹くまちビジョン」を踏まえ】
 - ・ 児童理解を充実させ、児童の良さや個性・特性を見出して多方面から情報を摂取する。
児童と接する機会を多く持ち、伸張させる。（コミュニケーション能力の向上、児童理解）
 - ・ 異年齢集団学習体験・個々の年齢に適應した体験的学習の機会をとおし、互いに認め合い高め合う経験をもたせ多様な人間関係を育てる。（体験的な学習）
 - ・ 各学年・学級では特色ある教育活動（自ら考え、学び、調べ、伝え、そして伝わる表現等の言語力を活かした）を工夫し、自立する児童を育成する。（言語表現活動）
 - ・ 規則を守ることの意義を理解させ、自らを律することのできる児童を育成する。（自律）
 - ・ 生育段階に応じたキャリア発達の特徴を捉え、充実を図り、自分で課題を見出し、挑戦する気持ちを育成する。（キャリア教育の充実）
 - ・ 学芸会、音楽会、ミニコンサート、音楽集会、学校展覧会等の取り組みを通じて、豊かな情操教育を育み心に潤いをもたせる教育の実践。（情緒教育の推進）
 - ・ 特別支援学級（ひかりルーム）を媒体に支援や配慮を要する児童に対し、巡回指導教員、特別支援専門員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育校内委員会を中心にスクールカウンセラー、心のふれあい相談員を活用し、全職員が共通認識に基づいたきめ細やかな指導を徹底する。（支援教育の理解と充実）

- (2) 授業力を高め、わかる授業を実践する。
- ・ 授業時数の確保（授業時間の始終時刻の厳守＝時間のけじめ）
 - ・ 「年間指導計画・評価計画」に基づく確かな学力の定着を図るための各教科の授業時数を確保し、授業規律の確立、児童一人一人が意欲をもって取り組める習慣を身につけさせる。授業時間の始終、時間のけじめから学校生活全体の規律を遵守する。
 - ・ 基礎・基本を定着させ、課題に正対する姿勢を育てる。自分の考えを的確に伝える力を身に付けさせ児童一人一人の学力を定着させ、学力向上を目指した学習支援に取り組む。
 - ・ 評価の観点を明確に提示し、学習目標を設定させ児童の学習意欲を引き出す。
 - ・ 教職員は、児童に魅力を感じさせる授業を構築・向上するために研鑽する。
(若手育成・自己研鑽)
 - ・ 特別の教科「道徳」、外国語活動の充実（ALTとの連携）
- (3) 全教職員の連携・協力を図り、OJTを駆使した学校組織の活性化を推進する。
- ・ 校務分掌組織の業務を明確にし、教職員一人一人が自己責任を果たす。
 - ・ OJTの推進による校内研修体系の見直しを図り、組織を活性化する。
 - ・ 機能的に職務に取り組むよう各部・各係間の連絡・連携を密にして、互いに協力する。
 - ・ 諸会議の運営にあたり、議事進行の効率化を図る。(運営委員会の充実)
 - ・ 各研修の充実を図り、研究授業・公開授業を提供し、教員研修の一端とする。
- (4) オリリンピック・パラリンピック教育の推進
- ・ 各教科、領域の学習に関連し、大会についてその価値や意義を学び児童自ら関わる意欲を高める。
 - ・ 国際理解・人権教育に関わる活動、道徳教育推進教員・ALTとの連携を密にして人権教育・外国語活動を推進していく。
 - ・ 体育的な活動および食育の充実、心身の健康と基礎体力の向上を図る。
- (5) 幼・保・小・中連携を通じて、流れのポイントを探る。
- ・ 練馬区の施策事業として、小中連携の責務を自覚し、加えて幼稚園、保育園との連携も深め授業の流れを中心に幼保小中15カ年を見通して取り組む。小中相互の授業研究等を実施する。可能な限り、保育園、幼稚園に訪問する。
 - ・ 異年齢集団での活動「なつくもスマイル」や「運動会」「学芸会」「音楽会」等の行事を通して互いを認め合う思いやりと尊敬・感謝の心を育む。
 - ・ 中学校の体験や紹介をとおして、中学校生活への興味・関心を高めさせる。
- (6) 安心・安全で豊かな心を育む学校をつくる。
- ・ 「優しい言葉、美しい言葉遣い」「挨拶」を基本として「怒」の心が伝わる学校づくりに努め、互いの美しく正しい言葉遣い、優しい言葉遣いを推進し、教職員と児童、児童と児童間で、心の交流に努め、豊かな心を育む。
 - ・ 充実した相談体制を構築し、児童一人一人、保護者の悩みや思いを把握し、問題行動等の未然防止や早期解決を図り、児童を守る。
(情報の共有)
 - ・ 校舎内外の緑化活動、校内や通学路等の危機管理を把握徹底し安全性の向上に努める。
 - ・ 情報源を豊かにして危機管理と情報管理を徹底、適切な対応をとる。
(未然防止)
 - ・ 「報告、連絡、相談」を徹底し教職員間の連携を密にし、災害・事故等への適切な対応ができる校内体制および教育計画の再確認と作成を確立する。
 - ・ 事案に対し正確な事実の時系列的に記録する。早期対応・解決に取り組む。
 - ・ 個人情報等の情報管理に努め、その取り組みを保護者に知らせる。
 - ・ 会計管理には厳正に当たり、常にコスト意識をもつ。
 - ・ 避難所拠点連絡会との連携を密にして、宿泊訓練等に積極的に参加し、危機管理意識を向上する。
- (7) 服務の厳正・信頼される学校づくりに努める。
(服務事故「0・ゼロ」)
- ・ 全職員は、児童・保護者・地域との信頼関係に基づいた厳正なサービスを遂行する。
 - ・ 教職員は、教育の専門職として進んで研修に励み、その資質向上を常に心がけ、保護者、地域からの信頼を得られる教育実践を積み重ねる。
- (8) 家庭・地域社会との連携を強化する。
- ・ 教育活動を地域や保護者に、その教育活動の内容や児童の状況について学校だより「なつくも」、ホームページのこまめな更新、各学年だより、学級だより等をとおして、保護者などに積極的に告知し透明性及び信頼を高める。
 - ・ 保護者からの要望等に対しては、誠意をもって速やかに組織的に対応する。
 - ・ 教育活動に関し、必要に応じて保護者や関係諸機関などの連携・協力を求める。
 - ・ 学校評議員および保護者、地域への学校公開を常に基本とし、学校評議員会と連携し、学校評価や授業診断を行い学校力・授業力の向上を図る。